

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール 設置マニュアル



Part No: 821-3608-10
2010年11月、Revision B

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このマニュアルの使用法	5
製品情報 Web サイト	5
関連ドキュメント	5
このドキュメントについて (PDF と HTML)	7
ドキュメントのコメント	8
寄稿者	8
変更履歴	8
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの概要	9
一般的に使用される用語	9
製品の説明	10
製品の機能	13
仕様	16
サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ	18
サーバーモジュールの設置と電源投入	19
サーバーモジュールの出荷	19
シリアル番号の確認と保証サポート情報へのアクセス	20
オプションのコンポーネントの追加	21
インストールの前提条件	22
サーバーモジュールの設置方法	24
サーバーモジュールノードへの全電力の投入方法	25
サーバーモジュールノードの電源切断方法	26
サーバーの電源状態のトラブルシューティング	27
ILOM の設定	29
CMMILOM とノード ILOM の概要	30
ILOM の IP アドレスの取得	34
ILOM へのアクセス	38
ILOM の IP アドレスの設定	42
ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス	44

サポートされている OS のインストール	49
フラッシュモジュール	50
USB フラッシュドライブ	50
起動デバイスの指定	51
索引	53

このマニュアルの使用方法

この節では、関連ドキュメント、フィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF と HTML)」
- 8 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「寄稿者」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの情報については、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモデルをクリックします。

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

関連ドキュメント

Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関連するドキュメントの一覧を次に示します。これらのドキュメントおよびその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2#hic>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールドキュメ ント	Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール製品ドキュメント	検索と索引を含む、アスタリスク (*) の付いたすべてのドキュメントの統 合 HTML バージョン。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用の手引き』	図によるセットアップのクイックリ ファレンス。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール設置マニュアル』*	サーバーを設置、ラック収納、およ び設定して初めて電源を入れるまで の方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用にあたって』*	サーバーに関する重要な最新情報。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle Solaris オペレーティン グシステムインストールガイド』*	Oracle Solaris OS をサーバーにインス トールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Linux オペレーティングシス テムインストールガイド』*	サポートされる Linux OS を サーバーにインストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Windows オペレーティング システムインストールガイド』*	サポートされるバージョンの Microsoft Windows OS をサーバーにイ ンストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle VM オペレーティング システムインストールガイド』*	サポートされるバージョンの Oracle VM OS をサーバーにインストールす る方法。
	『Oracle x86 サーバー診断ガイド』*	サーバーの問題を診断する方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールサービスマニュアル』*	サーバーの保守と維持管理を行う方 法。
Sun ディスク管理 のドキュメント	『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide』	サーバーの安全性および適合性に関 する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』*	サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情 報。
	保守ラベル	サーバーモジュールに表示される保 守ラベルのコピー。
Sun ディスク管理 のドキュメント	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情 報。

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
x64 サーバーのアプリケーションとユーティリティのドキュメント	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』	ILOM の新機能に関する情報。 ILOM 3.0 の概要。 ILOM 3.0 に関する概念情報。 Web インタフェースで ILOM を使用する方法。 コマンドで ILOM を使用する方法。 管理プロトコルに関する情報。

これらのドキュメントの一部については、前述の Web サイトで簡体字中国語、韓国語、日本語、フランス語、スペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF と HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

注- 「ドキュメント情報」と「索引」のトピックには、関連する PDF はありません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントを送信するには、ドキュメントサイト (<http://docs.sun.com>) の任意のページの右下にある「Feedback {+}」リンクをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan。

寄稿者: Kenny Tung、Adam Ru、Isaac Yang、Stone Zhang、Susie Fang、Lyle Yang、Joan Xiong、Redarmy Fan、Barry Xiao、Evan Xuan、Neil Gu、Leigh Chen、Eric Kong、Kenus Lee。

変更履歴

このドキュメントセットのリリース履歴を次に示します。

- 2010年11月、初版発行。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの概要

ここでは、Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの機能の概要と、製品の仕様について説明します。

- 9 ページの「一般的に使用される用語」
- 10 ページの「製品の説明」
- 13 ページの「製品の機能」
- 16 ページの「仕様」
- 18 ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」

一般的に使用される用語

次の表では、このマニュアルで一般的に使用される用語の一部を示します。

用語	定義
シャーシ	Sun Blade 6000 モジュラーシステムのハードウェア。 Sun Blade 6000 モジュラーシステムについての詳細は、 http://docs.sun.com/app/docs/coll/blade6000 を参照してください。
CMM	シャーシ監視モジュール。Sun モジュラーシステムシャーシ全体に対するベースボード管理コントローラ (BMC)。
FMod	フラッシュモジュール。SATA ディスクと同様に機能し、フラッシュメモリー技術を使用してデータアクセスの速度を高速化する、ユーザー取り付け可能な高性能半導体ストレージデバイス (DIMM に類似)。
ILOM[ILOM]	Oracle の Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、サーバーモジュールノード SP および CMM で動作する、システム管理用の組み込み管理ソフトウェアです。 ILOM についての詳細は、Integrated Lights Out Manager のドキュメントを参照してください。
NEM	Network Express Module (NEM)。Sun Blade モジュラーシステムシャーシに接続されるネットワーク I/O コンポーネント。シャーシには、2 つの NEM スロット (NEM 0 と NEM 1) があります。

用語	定義
ノード	サーバーブレード上に存在する独立したコンピュータ (演算ノードとも呼ばれます)。各ノードは、独自のCPU、メモリー、I/O、サービスプロセッサを備えています。Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールには、2つのノード (1つのブレード上の2つの異なるサーバー) があります。
PCIe EM	<p>PCI Express (PCIe) ExpressModule (EM)。PCIe EM をシャーシに取り付けると、設置されているサーバーブレードにオプションカードの拡張を提供できます。Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの各ノードには、使用可能なPCIe EM シャーシスロットが1つあります。</p> <p>注 - サーバーモジュールの場合、ノード 0 はシャーシブレード PCIe EM スロット 1 に、ノード 1 はシャーシブレード PCIe EM スロット 0 に、それぞれ割り当てられています。</p>
サーバーモジュール	Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールハードウェア。Sun Blade 6000 モジュラーシステムのシャーシに差し込む物理的なサーバー。
SP	サーバーモジュールの組み込みサービスプロセッサ (SP)。SP は「ベースボード管理コントローラ」(BMC) です。サーバーブレードの各ノードには、専用の SP があります。Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシには、シャーシ監視モジュール (CMM) と呼ばれる独自の SP もあります。

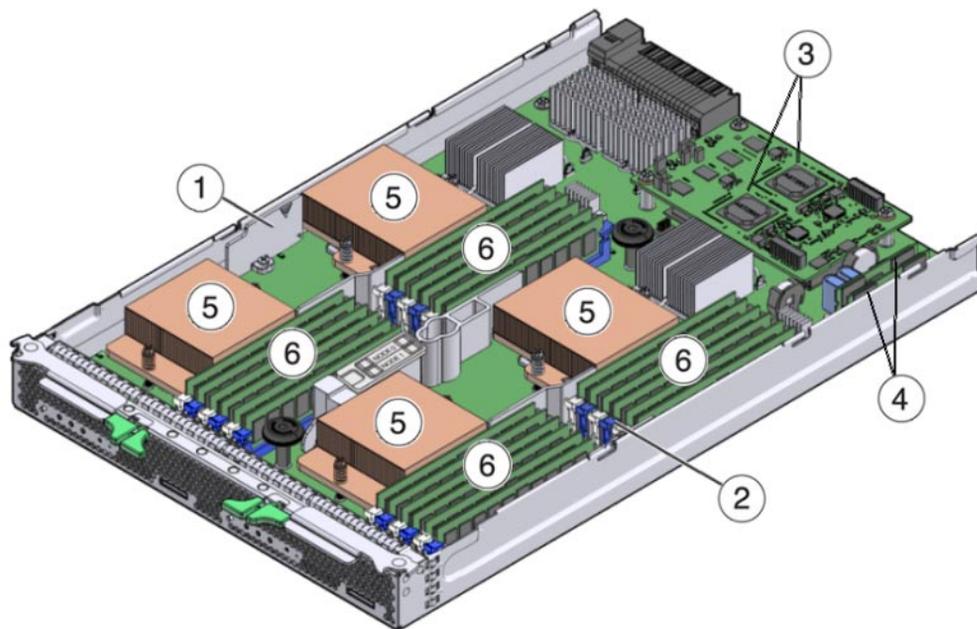
製品の説明

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは、デュアルノードの高性能コンピューティング (HPC) ブレードです。サーバーブレードの2つの演算ノード (ノード 0 とノード 1) は、単一のブレード格納装置内の単一のマザーボードに収納されています。サーバーモジュールは、Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシでのみサポートされています。

このサーバーを使用できるモデルは2つあります。

- Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールと GbE (X6275M2-BB)。
- Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールと 10GbE (X6275M2-CB)。

次の図では、メインシステムコンポーネントのレイアウトを示します。



各部の説明			
1	ノード 0	2	ノード 1
3	AST2100 サービスプロセッサ(ノードごとに1個)	4	フラッシュモジュール(ノードごとに1個)
5	CPU(ノードごとに2個)	6	メモリーDIMM(ノードごとに12個)

サーバーモジュールは次のように構成されます。

- 両方のサーバーモジュール演算ノードは同一で対称型ですが、相互に完全に独立しています。
- 各ノードは2ソケット6コアのIntel Xeon 5600 シリーズプラットフォームが基になっており、Intel 5500 チップセット (IOH-24D Northbridge および ICH10 Southbridge) とネットワーク I/O を備えています。
- 各ノードは、最大12個の低電圧DDR3 DIMMをサポートします(8GB DIMMを使用して最大96GBのメインメモリー)。

注-サーバーモジュールの両方のノードを同じように設定する必要があります(CPUとメモリー)。

- 次のネットワークインタフェースを使用できます。
 - 組み込みの Intel 82567 GbE コントローラを使用する、ノードごとに 1 個の 10/100/1000Base-T Ethernet ポート (サーバーモジュールモデル X6275M2-BB)。
— または —
 - 組み込みの Mellanox ConnectX-2 コントローラと XAUI を使用する、ノードごとに 2 個の 10GbE ポート (サーバーモジュールモデル X6275M2-CB)。

注-このモデルの 10GbE 信号は組み込みの Mellanox ConnectX-2 コントローラによって生成されるため、ファブリック拡張モジュール (FEM) は必要ありません。このモデルに対して現在サポートされている 10GbE NEM は、Sun Blade 6000 Ethernet Switched 24p 10GbE NEM (X2073A) だけです。

- 各ノードは、AST2100 チップに基づく独自のサービスプロセッサを備え、Oracle Integrated Lights Out Management (ILOM バージョン 3.0) と共有 10/100 Ethernet 管理ポートを提供します。
- 各ノードは、オプションの 24 GB Sun Flash Module (FMod) の追加をサポートし、高速で信頼できる半導体ストレージと、安全なローカルブートソースをノードに提供します。

注-サーバーモジュールのノードは、RAID 拡張モジュール (REM) の取り付けをサポートしません。ただし、各ノードで 1 個のシャーシ PCIe EM スロットを利用でき、外部ストレージに接続されたサポート対象の外部ホストバスアダプタ (HBA) 用に使用できます。

- 各ノードに、ローカルストレージ用のオプションの USB フラッシュドライブを追加するための内蔵 USB ポートがあります (ブレード後部のサービスプロセッサボードの下部)。

関連項目

- [9 ページの「一般的に使用される用語」](#)
- [13 ページの「製品の機能」](#)
- [16 ページの「仕様」](#)
- [18 ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」](#)

製品の機能

機能	説明
シャーシの互換性	<p>Sun Blade 6000 モジュールシステムと PCIe 2.0 ミッドプレーン (モデル A90-B で標準)。</p> <p>CMM ILOM ファームウェアの最低要件: シャーシソフトウェアリリース 3.2 付属の 3.0.10.15。</p>
シャーシミッドプレーン I/O	<p>サーバーモデルに応じて、各ノードはシャーシのミッドプレーンを通して NEM への 1GbE または 10GbE インタフェースをサポートします。</p> <p>注-サポートされる NEM に 1GbE ポートと 10GbE ポートの両方が含まれる可能性があります、サーバーモジュールがサポートするインタフェースは 1 種類のみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ シャーシの PCIe EM スロットに対する、ノードごとに 1 個の (x8) PCIe 2.0 バス接続。ノード 0 はシャーシブレードの PCIe EM スロット 1 に割り当てられ、ノード 1 はシャーシブレードの PCIe EM スロット 0 に割り当てられます。 ■ 1GbE モデル (X6275M2-BB) ではノードごとに 1 個の 10/100/1000Base-T Ethernet ポート。ノード 0 のポートは NEM スロット 0 に割り当てられ、ノード 1 のポートは NEM スロット 1 に割り当てられます。 ■ 10GbE モデル (X6275M2-CB) ではノードごとに 2 個の 10GbE ポート。各ノードの 1 つのポートは NEM スロット 0 に割り当てられ、各ノードのもう 1 つのポートは NEM スロット 1 に割り当てられます。
CPU	<p>サーバーモジュールごとに最大 4 個の Intel Xeon Processor E5600 シリーズ 6 コアプロセッサ (ノードごとに 2 個)。ノードごとに 12 コア、サーバーモジュール全体では合計 24 コア。</p> <p>注-サーバーモジュールの両方のノードを同じように設定する必要があります (CPU とメモリー)。</p>
デュアルノード設計	<p>単一のブレード格納装置内に 2 個の独立した対称型演算ノード 0 および 1。</p>
フロントパネル I/O	<p>2 個の Universal Connector Ports (UCP) (各ノードに 1 個) を、マルチポート (ドングル) ケーブルで使用できます。マルチポートケーブルは、次のインタフェース接続を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VGA グラフィックスポート。 ■ RJ-45 シリアル管理ポート。 ■ デュアル USB ポート (キーボード/マウス/USB ドライブ)。

機能	説明
メモリー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全部で24個のメモリスロット(演算ノードごとに12スロット)。スロットは、最高1333MHzの低電圧DDR3、ECCレジスタ付きDIMMをサポートします。 ■ 8GB DIMMを使用すると、各ノードで最大96GBのメインメモリー。 ■ 4GB DIMMを使用すると、各ノードで最大48GBのメインメモリー。 ■ チャンネルごとに最大2個のDDR3 DIMM、取り付けられているプロセッサごとに3チャンネル。 <p>注-サーバーモジュールの両方のノードを同じように設定する必要があります(CPUとメモリー)。</p>
Network Express Module (NEM)の互換性	<p>各ノードホストには、ネットワークI/O用にNEMが必要です(NEMの要件についての詳細は、22ページの「インストールの前提条件」を参照)。NEM SASポート(内部または外部)はサポートされていません。</p> <p>1GbE (X6275M2-BB)のSun Blade X6275 M2では次のNEMがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A) — 推奨。 ■ Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A)。 ■ Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE NEM (X4238)。 ■ Sun Blade 6000 Multi-Fabric NEM (X4212A)。 <p>10GbE (X6275M2-CB)のSun Blade X6275 M2では次のNEMがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Blade 6000 Ethernet Switched 24p 10GbE NEM (X2073A) — Sun Blade X6275 M2サーバーモジュールではFEMは不要です。 <p>注- 10GbEモデルの場合、Sun Blade 6000 Ethernet Switched 24p 10GbE NEMは1GbEインタフェースを提供しないため、各サーバーノードには1GbEインタフェースが存在しますがファームウェアによって無効にされます。</p>

機能	説明
オペレーティングシステム	次に、1GbE モデルのみについての OS サポートを示します。10GbE モデルについては、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』の「サポートされているオペレーティングシステム」で最新情報を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 10/09 OS。 ■ Oracle Linux 5.5 (64 ビット)。 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)。 ■ SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (64 ビット、Xen なし)。 ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1 (64 ビット、Xen なし)。 ■ Oracle Virtual Machine 2.2.1。 ■ Microsoft Windows Server 2008 R2。
サービスプロセッサ (SP)	各ノードには AST2100 サービスプロセッサ (SP) が含まれます。SP は、IPMI 2.0 に準拠したリモート管理機能を提供します。各ノードの SP 機能は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Integrated Lights Out Manager (ILOM バージョン 3.0)。 ■ シリアル接続を使用したローカル ILOM コマンド行アクセス。 ■ ミッドプレーンへの 10/100 管理 Ethernet ポート (両ノードの SP で共有)。 ■ IP 経由のリモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS)。
ストレージ	<ul style="list-style-type: none"> ■ オプションの 24 GB SATA Sun フラッシュモジュール用の 2 個の内部スロット (各ノードに 1 個)。 ■ オプションの USB 2.0 フラッシュドライブ用の 2 個の内部ポート (各ノードに 1 個)。 <p>注-サーバーモジュールのノードは RAID 拡張モジュール (REM) の取り付けをサポートしないので、ブレードストレージに対する内部シャーシ SAS 接続はサポートされません。ただし、各ノードには PCIe EM スロットが割り当てられており、外部ストレージに接続する HBA 用に使用できます。</p>
ビデオ	8 MB のビデオメモリーで最大 1280x1024 の解像度がサポートされます。

関連項目

- 9 ページの「一般的に使用される用語」
- 10 ページの「製品の説明」
- 16 ページの「仕様」
- 18 ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」

仕様

次の表では、サーバーモジュールの寸法、電気、および環境の仕様について説明します。

サーバーモジュールの寸法:

仕様	値
高さ	327 mm/12.87 インチ
幅	43 mm/1.69 インチ
奥行	512 mm/20.16 インチ
重量	最大: ~20.61 lbs (9.36 kg)、24 個の 4GB 低電圧 DDR3 DIMM および 4 個の Intel Xeon EP プロセッサを取り付けた状態

電気仕様:

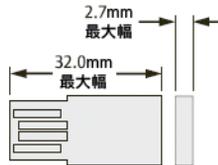
仕様	値
電圧 (公称)	シャーシのバックプレーンから 12V メイン シャーシのバックプレーンから 3.3 V AUX
電力 (最大)	604W (最大許容電力) - 24 個の 4 GB 低電圧 DDR3 DIMM および 4 個の Intel Xeon EP プロセッサを取り付けた状態

環境仕様:

仕様	値
温度 (動作時)	41 から 90° F 5 から 32° C
温度 (ストレージ)	-40 から 158° F -40 から 70° C
湿度	10 から 90% 結露なし
動作時の高度	0 - 10,000 フィート (0 - 3048 メートル)

内蔵 USB ポート仕様:

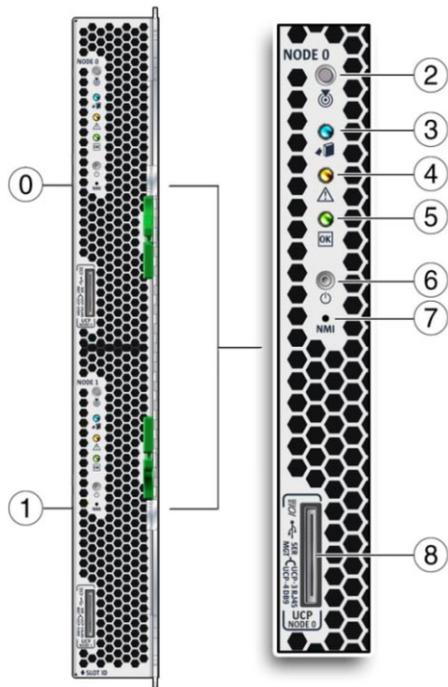
サーバーモジュールは、2個の内蔵USBポートを備えています(各ノード1個)。標準USB 2.0インタフェースのUSBフラッシュドライブは、サードパーティーから入手できます。次に示すように、USBフラッシュドライブは、幅2.7mm×長さ32.0mm以内である必要があります。



関連項目

- [9 ページの「一般的に使用される用語」](#)
- [10 ページの「製品の説明」](#)
- [13 ページの「製品の機能」](#)
- [18 ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」](#)

サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ



0	ノード 0。
1	ノード 1。
2	位置特定 LED (白色)。ボタンを押してサーバーを識別します。
3	サーバーモジュール取り外し可能 LED (青色)。主電源が切断されています。
4	保守要求 LED (オレンジ色)。障害状態が発生しました。
5	OK/電源 LED (緑色)。モード： <ul style="list-style-type: none"> ■ SP ブート – 高速点滅 (0.125 秒オン、0.125 秒オフ)。 ■ スタンバイ電源 – 点滅 (0.1 秒オン、2.9 秒オフ)。 ■ ホストブート – ゆっくり点滅 (0.5 秒オン、0.5 秒オフ)。 ■ 全電力 – 常時点灯。
6	電源ボタン。短く押すと、サーバーのスタンバイ電源と全電力が切り替わります。 注意 - 全電力モードのときに電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、即時停止が開始され、スタンバイ電源モードになります。データ損失が発生する可能性があります。
7	マスク不可能割り込み (NMI) ボタン。 注意 - サービス専用です。Oracle の担当者から指示された場合でないかぎり、押さないでください。
8	マルチポート (ドングル) ケーブル用のユニバーサルコネクタポート (UCP)。

サーバーモジュールの設置と電源投入

この節では、サーバーモジュールを Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシに設置する方法について説明します。

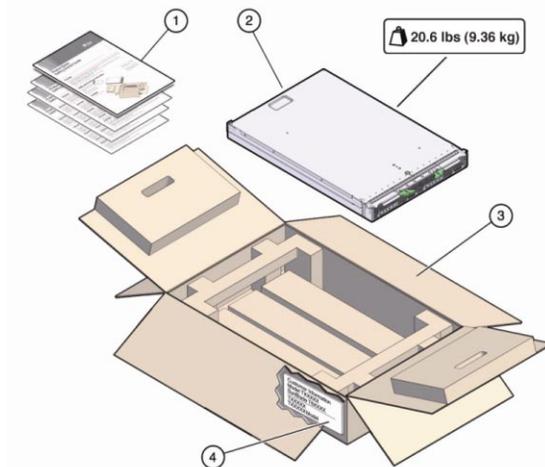
設置では、次のタスクを行います。

手順	タスク	リンク
1	出荷用コンテナからサーバーモジュールを取り出します。	19 ページの「サーバーモジュールの出荷」
2	サーバーのシリアル番号を確認し、保証サポートの情報にアクセスする場所を確認します。	20 ページの「シリアル番号の確認と保証サポート情報へのアクセス」
3	適用可能場合は、サーバーモジュールをシャーシに設置する前に、オプションのサーバーモジュールコンポーネントを取り付けます。	21 ページの「オプションのコンポーネントの追加」
4	その他の設置前手順が完了しているか確認します。	22 ページの「インストールの前提条件」
5	電源が入っているシャーシにサーバーモジュールを設置します。	24 ページの「サーバーモジュールの設置方法」
6	サーバーモジュールに主電源を投入します。	25 ページの「サーバーモジュールノードへの全電力の投入方法」

サーバーモジュールの出荷

サーバーモジュールの標準構成は、工場で組み立てられ、Sun Blade 6000 シリーズシャーシに設置可能な状態で出荷されます。

梱包箱に含まれる標準サーバーコンポーネントは、次のとおりです。



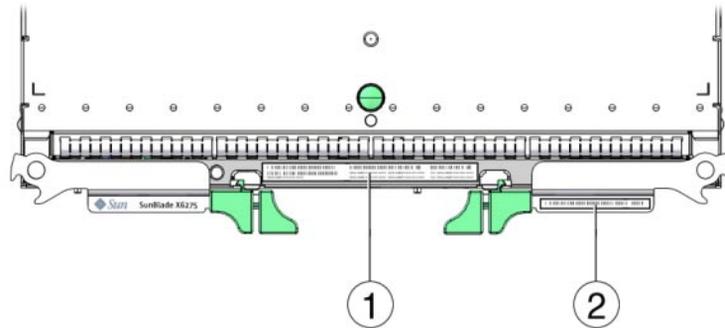
図の番号	説明
1	ドキュメント
2	サーバーモジュール
3	ボックス
4	出荷ラベル

関連項目

- 20 ページの「シリアル番号の確認と保証サポート情報へのアクセス」
- 21 ページの「オプションのコンポーネントの追加」
- 22 ページの「インストールの前提条件」
- 24 ページの「サーバーモジュールの設置方法」

シリアル番号の確認と保証サポート情報へのアクセス

サーバーモジュールに対する Oacle 保証サポートが必要な場合は、シリアル番号が必要になります。シリアル番号は、サーバーモジュールの正面の取り外しレバーのラベルに記載されています (2 を参照)。もう 1 つのラベルはサーバーモジュールの上部にあり、確認するにはサーバーモジュールの取り外しが必要です (1 を参照)。



注-サーバーモジュールのシリアル番号は、CMMILOMで表示することもできます。CMMILOMの使用の詳細については、30ページの「CMMILOMとノードILOMの概要」を参照してください。

製品のサポートおよび保証に関する情報を表示するには、<http://www.sun.com/service/warranty/index.jsp>を参照してください。

関連項目

- 21 ページの「オプションのコンポーネントの追加」
- 22 ページの「インストールの前提条件」
- 24 ページの「サーバーモジュールの設置方法」

オプションのコンポーネントの追加

標準構成と別に購入したオプションのサーバーモジュールコンポーネントは、別に出荷されます。オプションの取り付けは、ほとんどの場合、サーバーモジュールをシャーシに設置する前に行う必要があります。

注-サーバーモジュールの両方のノードを同じように設定する必要があります(CPUとメモリー)。

次のオプションのサーバーモジュールコンポーネントを注文できます。これらは別に購入できます。

- CPU アセンブリオプション
- DDR3 DIMM メモリーキット
- フラッシュモジュール (FMod)
- マルチポート (またはドングル) ケーブル

- ソフトウェアメディア

サポートされるコンポーネントとそのパーツ番号は、将来通知なしに変更される可能性があります。最新のリストについては、http://sunsolve.sun.com/handbook_pub/Systems を参照してください。

注- このサイトにアクセスするには、Oracle Web アカウントが必要です。

サーバーの名前とモデルをクリックします。サーバーで表示された製品ページで、「Full Components List (フルコンポーネントリスト)」をクリックしてコンポーネントの一覧を表示します。

オプションの現場交換可能ユニット (FRU) または顧客交換可能ユニット (CRU) を注文した場合は、上部のカバーにある保守ラベルまたは『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「コンポーネントの取り外しおよび取り付け手順」に記載されている取り付け手順を参照してください。

注- このサーバーは、Reduction of Hazardous Substances (RoHS) 指令と完全に互換しません。

関連項目

- [22 ページの「インストールの前提条件」](#)
- [24 ページの「サーバーモジュールの設置方法」](#)

インストールの前提条件

サーバーモジュールを Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシに設置する前に、次のタスクが完了していることを確認します。

1. サーバーモジュールのオプションコンポーネントを取り付けます。21 ページの「[オプションのコンポーネントの追加](#)」を参照してください。
2. サーバーモジュールを設置する Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシがサポートされているハードウェアとファームウェアで稼動し、障害がないことを確認します。
 - シャーシのミッドプレーンが PCIe 2.0 (標準はモデル A90-B) をサポートすることを確認します。ミッドプレーンのバージョンの確認方法の最新情報については、『Sun Blade 6000 モジュラーシステムご使用にあたって』を参照してください。
 - シャーシ監視モジュール (CMM) のファームウェアバージョンが、3.0.10.15 (Blade 6000 モジュラーシステムソフトウェアリリース 3.2 に付属) 以上であることを確認します。

- シャーシに必要なすべての電源ケーブルとデータケーブルが接続されていることを確認します。
- サーバーモジュールでの使用がサポートされる Network Expansion Module (NEM) が、シャーシに設置され、問題なく動作していることを確認します。詳細は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』の「サポートされているハードウェア」を参照してください。

注-1GbE (X6275M2-BB) を使用する Sun Blade X6275 M2 の場合は、各ノードに1つのネットワークポートがあります。ノード0のポートは、シャーシスロット NEM0 のサポートされる NEM に割り当てられ、ノード1のポートは、シャーシスロット NEM1 のサポートされる NEM に割り当てられます。

10GbE (X6275M2-CB) を使用する Sun Blade X6275 M2 の場合は、両方のノードに2つのネットワークノードがあります。1つのポートは、シャーシスロット NEM1 の NEM に割り当てられ、もう一方のポートは、シャーシスロット NEM0 のサポートされる NEM に割り当てられます。

シャーシコンポーネントの設置、ケーブルの接続、シャーシの電源投入については、次の Web サイトにある Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシのドキュメントを参照してください。 <http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr?l=ja>

3. 各ノードの Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP) に接続する方法を選択します。次の方法があります。
 - ネットワーク接続。PC またはワークステーションを SP と同じネットワークに接続する必要があります。
 - サーバーのフロントパネルにあるノードの UCP コネクタに接続されたオプションのマルチポートケーブルのシリアル管理ポートを使用するノード SP の直接接続 (詳細は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「マルチポートケーブルの使用」を参照)。端末エミュレーションソフトウェアがインストールされた PC または ASCII 端末ワークステーションが必要です。端末サーバーも使用できます。
4. ホストコンソール (BIOS と OS) に接続する方法を選択します。次の方法があります。
 - ILOM を使用して、ホストコンソールにリモートでリダイレクトできるようにするための SP へのネットワーク接続。PC またはワークステーションを SP と同じネットワークに接続する必要があります。
 - マルチポートケーブルコネクタ (VGA と USB) によるホスト直接接続。詳細については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「マルチポートケーブルの使用」を参照してください。

次の手順

- 24 ページの「サーバーモジュールの設置方法」
- 29 ページの「ILOM の設定」
- 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

▼ サーバーモジュールの設置方法

始める前に 22 ページの「インストールの前提条件」に記載されているすべての手順を実行し、すべての要件を満たします。

- 1 **Sun Blade 6000** モジュールシステムシャーシに電源が入っていて、正常に(障害なく)動作していることを確認します。

シャーシの電源が入っている場合、ファンが動作し、シャーシの OK/電源 LED が緑色に常時点灯します。OK/電源 LED は、シャーシの前面と背面の両方にあります。シャーシに電源が入っていない場合、または障害状態の場合は、シャーシのドキュメントで問題を解決する方法を確認してください。

- 2 シャーシ内で空いているブレードスロットを見つけ、スロットフィルターパネルを外します。

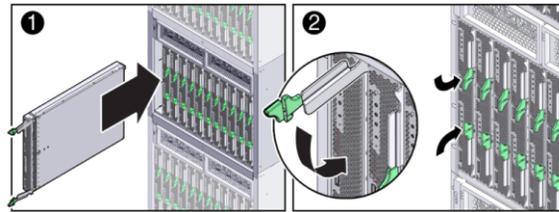
取り外しレバーのアームハンドルの両端をつまんでロックを外し、レバーをオープン位置まで外側に回転させて、フィルターパネルを取り出します。

フィルターパネルはあとで使用するので保管しておきます。



注意-サーバーモジュールをスロットに設置しない場合は、スロットのフィルターパネルを取り外さないでください。スロットのフィルターパネルは、電磁妨害 (EMI) に関する FCC の標準を満たすために必要です。スロットを空にしたまま 60 秒以上シャーシを動作させないでください。シャーシが停止する可能性を少なくするため、空のスロットには必ずフィルターパネルを挿入してください。

- 3 両方のサーバーモジュール取り外しレバーを開き、取り外しレバーが右側にくるようにサーバーモジュールを垂直に置きます。
- 4 次のようにしてサーバーを取り付けます。
 - a. サーバーモジュールをスロットに止まるまで押し込み、シャーシ前面と同じ高さになるようにします (1 を参照)。
 - b. サーバーモジュールをシャーシに固定します。上下の取り外しレバーが所定の位置にくるまで、上の取り外しレバーを下向きに回転させ、下部の取り外しレバーを上向きに回転させます (2 を参照)。
これで、サーバーモジュールはシャーシに固定されます。



- 5 サーバーモジュールのLEDが正しく点灯していることを確認します。
- サーバーモジュールを電源の入っているシャーシに設置すると、各サーバーモジュールノードのSPは、シャーシ電源装置のスタンバイ電源を使用して自動的にブートします。この時点では、シャーシのOK/電源LEDが緑色に常時点灯します。サーバーモジュールのフロントパネルインジケータは、次のように点灯します。
- サーバーモジュールを接続した後、4つのサーバーモジュールLED(各ノードの)がすべて3回点滅します。これは、ブレードに電源が投入され、SPのブートプロセスが開始されたことを示します。
 - 各ノードの緑色のOK/電源LEDがすばやく点滅します。これは、ノードのSPがブート中であることを示します(0.125秒オン、0.125秒オフ)。
 - 各ノードのSPがブートサイクルを完了すると、各ノードの緑色のOK/電源LEDが3秒おきにすばやく点滅し、ノードがスタンバイ電源モードであることを示します。

ヒント-フロントパネルのLED情報については、18ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」を参照してください。サーバーモジュールのインジケータ、サーバーモジュールの取り外し、電源投入手順、およびフロントパネルのケーブル接続の詳細については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「サーバーモジュールとコンポーネントの概要」を参照してください。

- 6 両方のサーバーノードはスタンバイ電源状態になります。

- 次の手順
- 25ページの「サーバーモジュールノードへの全電力の投入方法」
 - 26ページの「サーバーモジュールノードの電源切断方法」
 - 27ページの「サーバーの電源状態のトラブルシューティング」
 - 29ページの「ILOMの設定」
 - 49ページの「サポートされているOSのインストール」

▼ サーバーモジュールノードへの全電力の投入方法

- 各ノードには、個別に電源が投入されます。

- ここで説明する方法を実行するには、サーバーに物理的に接続してする必要があります。または、各ノードの ILOM にログインして、リモートでノードに電源を投入することもできます。

- 1 サーバーモジュールのフロントパネルにある **OK/電源 LED** がスタンバイ点滅状態であることを確認します。

各ノードの緑色の OK/電源 LED が 3 秒おきにすばやく点滅し、ノードがスタンバイ電源モードであることを示します。18 ページの「サーバーモジュールのフロントパネルとインジケータ」を参照してください。

- 2 ノードに電源を投入するには、サーバーモジュールのフロントパネルにある埋め込み式の電源ボタンを押して放します。

電源投入中、サーバーモジュールのフロントパネルインジケータは次のように点灯します。

- ノードの緑色の OK/電源 LED がゆっくり点滅します。これは、ノードがブート中であることを示します (0.5 秒オン、0.5 秒オフ)。
- ノードの緑色の OK/電源 LED が緑色に常時点灯します。これは、ブートサイクルが完了し、ノードが準備できている状態を示します。

- 3 サーバーモジュールノードのフロントパネルにある **OK/電源 LED** は緑色に常時点灯し、ノードに電源が正常に投入されたことを示します。

- 4 2 つ目のノードに対して手順 1-3 を繰り返します。

- 参照
- 26 ページの「サーバーモジュールノードの電源切断方法」
 - 27 ページの「サーバーの電源状態のトラブルシューティング」
 - 29 ページの「ILOM の設定」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

▼ サーバーモジュールノードの電源切断方法

- 各ノードの電源は個別に切断されます。
- ここで説明する方法を実行するには、サーバーに物理的に接続してする必要があります。または、各ノードの ILOM にログインして、リモートでノードの電源を切断することもできます。

- 全電力モードのサーバーモジュールノードの電源を切断するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - 正常な停止。フロントパネルにある電源ボタンを押して放します。

この操作により、Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) が有効な OS では、適切な順序でのノードの OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効なオペレーティングシステムを実行していないサーバーの場合は、即時にスタンバイ電源モードに移行して停止します。
 - 即時停止。電源ボタンを 5 秒間押し続けると、主電源が切れてスタンバイ電源モードになります。
- 参照
- 25 ページの「サーバーモジュールノードへの全電力の投入方法」
 - 27 ページの「サーバーの電源状態のトラブルシューティング」
 - 29 ページの「ILOM の設定」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

サーバーの電源状態のトラブルシューティング

Sun Blade 6000 モジュラーシステムでサーバーモジュールの電源が入ると、システムは CMM に照会して、サーバーの電源を入れるのに十分な電力が電源ユニット (PSU) から供給可能かどうかを確認します。サーバーモジュールの電源を入れるのに十分な電力がない場合、CMM はサーバーモジュールへの電力供給を (スタンバイ電源、主電源とも) 拒否します。この状況が発生した場合、サーバーモジュールのフロントパネルにある OK/電源 LED はオフのままです。この電源の問題を解決するには、次のガイドラインに従います。

- ILOM のイベントログメッセージを見て、サーバーモジュールに電源投入の権限があるかどうかを確認します。サーバーモジュールの電源を入れるのに十分な電力がシャーシの PSU から得られない場合、イベントメッセージがログに記録されます。

ILOM イベントログ、または消費電力の監視については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントセットを参照してください。

- 現在設置されているすべてのシャーシコンポーネントの電源投入をサポートするのに十分な数の電源が、システムシャーシに設置されていることを確認します。

シャーシコンポーネントの電源投入に必要な電源の数については、システムシャーシのドキュメントを参照してください。
- 電力損失を避けるため、電源に対するデフォルトの CMM 電源管理設定を ILOM で使用します。

電源管理の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』の「電力使用状態の管理と消費電力の監視」を参照してください。

注 - 電源投入の権限が得られた場合、サーバーモジュールのフロントパネルにある OK/電源 LED がスタンバイ点滅状態になります。

- 必要に応じて、サーバーモジュールに付属する起動診断ツールを実行する方法について、『Oracle x86 サーバー診断ガイド』を参照してください。

ILOM の設定

ここでは、使用しているサーバーモジュールで Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) にアクセスし、各ノードでサービスプロセッサ (Service Processor、SP) のネットワーク構成を設定する方法を説明します。

次の表に、ILOM 設定タスクの情報を示します。

手順	タスク	リンク
1	サーバーモジュールで ILOM を使用する方法を学習します。	30 ページの「CMMILOM とノード ILOM の概要」
2	CMMILOM にログインして、各ノード SP の IP アドレスを取得します。	次のいずれかの手順を選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ 34 ページの「Web インタフェースを使用して ILOM の IP アドレスを表示する方法」■ 36 ページの「CLI を使用して ILOM の IP アドレスを表示する方法」
3	ノード ILOM にログインします。	次のいずれかの手順を選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ 38 ページの「Ethernet 接続を使用して ILOM の Web インタフェースにログインする方法」■ 40 ページの「Ethernet 接続を使用して ILOM CLI にログインする方法」■ 40 ページの「シリアル接続を使用して ILOM にログインする方法」
4	省略可能: ノード SP のネットワーク構成を設定します。 デフォルトでは DHCP が使用されます。	次のいずれかの手順を選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ 42 ページの「DHCP IP アドレスを設定する方法」■ 43 ページの「静的 IP アドレスを設定する方法」
5	省略可能: ILOM を使用してホストコンソールにアクセスします。	44 ページの「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」

CMM ILOM とノード ILOM の概要

このサーバーでは、Oracle の Integrated Lights Out Manager (ILOM) バージョン 3.0 以降がサポートされています。ILOM を使用すると、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの両方の演算ノードを管理できます。これは、シャーシの CMM ILOM、またはサーバーモジュールノードの ILOM サービスプロセッサのいずれかを使用して実行できます。

次のトピックでは、CMM ILOM とノード ILOM について説明します。

CMM ILOM について

Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシには、シャーシ管理モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) と呼ばれる専用のサービスプロセッサがあります。CMM ILOM は、サーバーモジュールの各ノードのサービスプロセッサに、シャーシを介した Ethernet 接続を提供します。

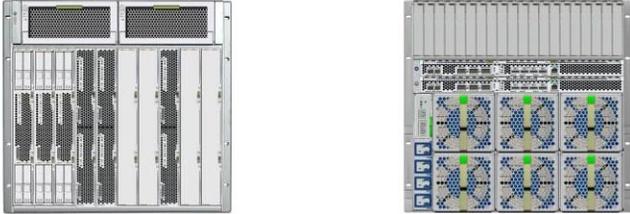
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールをサポートするために必要な CMM ILOM ファームウェアの最低バージョンは、**3.0.10.15** です (Sun Blade 6000 モジュラーシステムソフトウェアリリース 3.2 に付属)。

CMM ILOM ソフトウェアを使用すると、設置されたサーバーブレードやストレージブレードを含むすべてのシャーシコンポーネントの監視と管理を行うことができます。

CMM ILOM にログインしたときの Web インタフェースの例を次の図に示します。左の区画には、ブレード下にサーバーモジュールの 2 つのノードが示されています。

ABOUT 2 Warnings REFRESH LOG OUT
 User: root Role: aucro CMM Hostname: mpk12-2381-73-158
 Oracle® Integrated Lights Out Manager Java

Chassis View
 To manage a Blade or Chassis Monitoring Module, click on it in the left navigation pane or in the image below.



Chassis Inventory

Component	Name	Part Number	Serial Number
/CH	SUN BLADE 6000 MODULAR SYSTEM	000-0000-00	0000000-000000000000
/CH/CMM	CMM	000-0000-00	0000000000
/CH/BL0	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0328MSL-0952DN000W
/CH/BL1	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0328MSL-1030BW001F
/CH/BL2	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0303MSL-1030BW0003
/CH/BL3	SUN BLADE X6275 M2 SERVER MODULE	542-0162-01	0328MSL-0952DN000W
/CH/BL4	SUN BLADE X6275 M2 SERVER MODULE	542-0162-01	0328MSL-1030BW001F
/CH/BL7	SUN BLADE X6275 SERVER MODULE	000-0000-00	0000000000
/CH/NEM0	SUN BLADE 6000 ETHERNET SWITCHED NEM 24P 10GE	541-3770-03	-
/CH/NEM1	SUN BLADE 6000 ETHERNET SWITCHED NEM 24P 10GE	541-3770-03	-

Done 10.6.73.158

CMM ILOM へのログイン時に、コマンド行インタフェース (Command-Line Interface, CLI) を使用して、2つのノードについての情報を表示する例を次に示します。この例では、サーバーモジュールはシャーシブレードのスロット 3 に設置されています。

```
-> show /CH/BL3
```

```
/CH/BL3
```

```
Targets:
```

```
  NODE0
  NODE1
  PRSNT
  ERR
  VPS
```

```
Properties:
```

```
  type = Blade
  ipmi_name = BL3
  product_name = SUN BLADE X6275 M2 SERVER MODULE
  product_part_number = 542-0162-01
  product_serial_number = 0328MSL-1030BW0011
  system_identifier = mpk12-2381-72-130
  fru_name = unknown
  fru_version = FW 3.0.10.15
  fru_part_number = 542-0162-01
```

```
fru_serial_number = 0328MSL-1030BW0011
fru_extra_1 = FW 3.0.10.15
fault_state = OK
clear_fault_action = (none)
```

Commands:

```
cd
set
show
```

->

詳細情報については、次の Web サイトでシステムシャーシのドキュメントを参照してください。 <http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr?l=ja>

ノード ILOM について

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールには、2つのサービスプロセッサ (Service Processors、SP) が含まれています。サーバーモジュールの1つずつがノードを計算します。ILOM は、各ノードを個別に監視する方法を提供しています。

ILOM ソフトウェアを使用すると、サーバーノードコンポーネントの監視と管理を行うことができます。次にその内容を示します。

- ノードネットワーク情報の設定
- ノード SP のハードウェア構成の表示と編集
- 重要なシステム情報の監視と記録されたイベントの表示
- ILOM ユーザーアカウントの管理

ノード ILOM にログインしたときの Web インタフェースの例を次の図に示します。この図には、現在ログインしているノードに関する情報のみが示されています。

Oracle® Integrated Lights Out Manager

User: root Role: auroc CMM Hostname: mpk12-2381-73-158

System Information System Monitoring Power Management Configuration User Management Remote Control Maintenance

Versions Session Time-Out Components Fault Management Identification Information

Versions

View the version of ILOM firmware currently in use.

Property	Value
SP Firmware Version	3.0.4.10
SP Firmware Build Number	46759
SP Firmware Date	Fri Jul 10 14:54:13 PDT 2009
SP Filesystem Version	0.1.22

ノード ILOM へのログイン時に、コマンド行インタフェース (CLI) を使用して、入手可能な情報を表示する例を次に示します。この例では、ノードとそのシャーシ接続についての情報が示されています。

```
-> show /SYS/MB
Targets:
  BIOS
  CPLD
  NET0
  P0
  T_AMB_FRONT
  T_AMB_REAR

Properties:
  type = Motherboard
  ipmi_name = MB
  fru_name = ASSY, BLADE, X6275 M2 10GB
  fru_part_number = 542-0162-01
  fru_serial_number = 0328MSL-1030BW001F
  fru_extra_1 = 03 X6275M2-10Gb
  fault_state = OK
  clear_fault_action = (none)

Commands:
  cd
  set
  show
```

詳細については、Oracle ILOM 3.0 のドキュメントを参照してください。

関連項目

- 34 ページの「ILOM の IP アドレスの取得」
- 38 ページの「ILOM へのアクセス」
- 42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」

ILOMのIPアドレスの取得

このトピックでは、ノードのILOM SPのIPアドレスを取得する方法を説明します。各ノードILOMにはCMM ILOM経由でアクセスできますが、ネットワーク経由で直接ノードILOMに接続するには、ノードSPのIPアドレスが必要です。ノードSPのIPアドレスを取得する方法を次の中から選択します。

- 34ページの「Webインタフェースを使用してILOMのIPアドレスを表示する方法」
- 36ページの「CLIを使用してILOMのIPアドレスを表示する方法」

▼ Webインタフェースを使用してILOMのIPアドレスを表示する方法

シャーシのCMM ILOMを使用して、各サーバーノードのILOMサービスプロセッサのネットワーク構成(IPアドレスも含む)を表示する必要があります。この手順では、ノードのILOMが正しく機能し、CMM ILOM経由でアクセス可能かどうかを確認します。

始める前に シャーシのCMMは、Ethernet管理ポートを使用してネットワークに接続済みであり、設定が完了して運用可能な状態である必要があります。そうでない場合は、続行する前に使用しているシャーシのドキュメントを参照してください。

- 1 ログインするには、WebブラウザのアドレスフィールドにCMM ILOMのIPアドレスを入力します(例:<http://129.144.82.26>)。
Webインタフェースのログインページが表示されます。

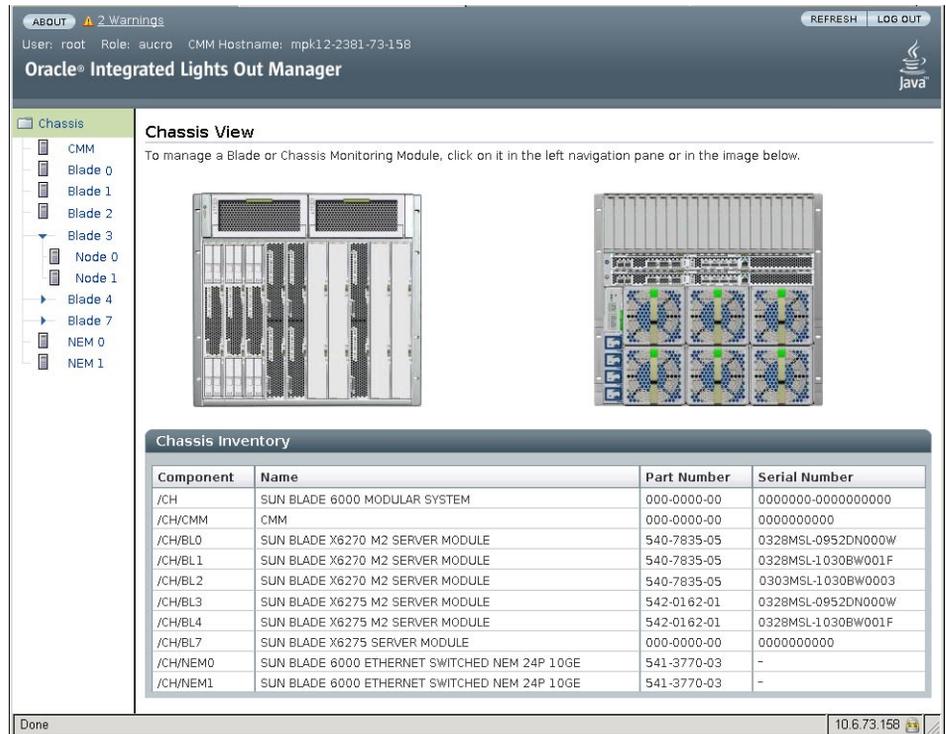


- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

3 「Log In」をクリックします。

Web インタフェースの「Chassis View」ページが表示されます。



Oracle® Integrated Lights Out Manager

User: root Role: auroc CMM Hostname: mpk12-2381-73-158

REFRESH LOG OUT

Java™

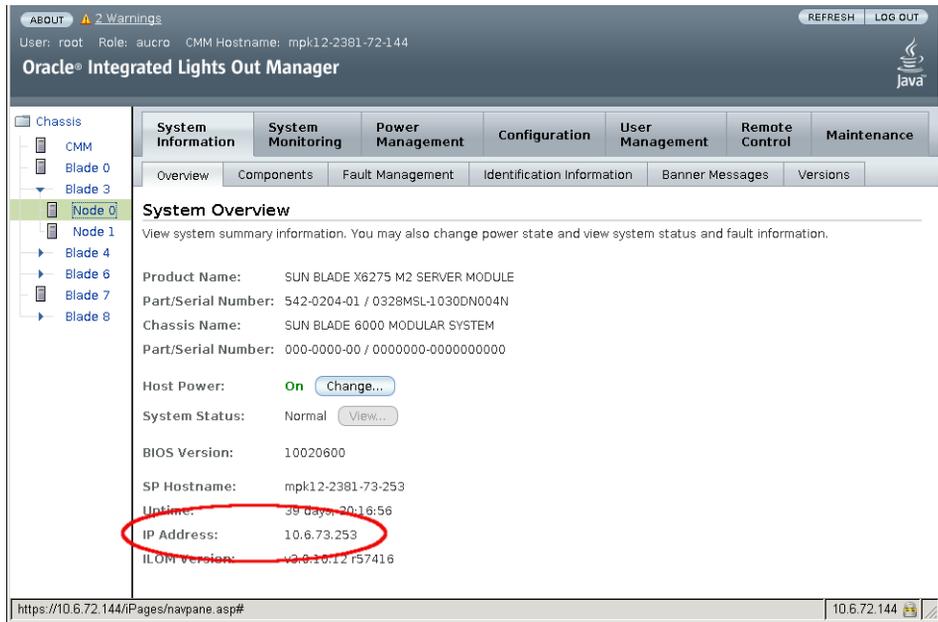
Chassis View

To manage a Blade or Chassis Monitoring Module, click on it in the left navigation pane or in the image below.

Component	Name	Part Number	Serial Number
/CH	SUN BLADE 6000 MODULAR SYSTEM	000-0000-00	0000000-00000000000
/CH/CMM	CMM	000-0000-00	0000000000
/CH/BL0	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0328MSL-0952DN000W
/CH/BL1	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0328MSL-1030BW001F
/CH/BL2	SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE	540-7835-05	0303MSL-1030BW0003
/CH/BL3	SUN BLADE X6275 M2 SERVER MODULE	542-0162-01	0328MSL-0952DN000W
/CH/BL4	SUN BLADE X6275 M2 SERVER MODULE	542-0162-01	0328MSL-1030BW001F
/CH/BL7	SUN BLADE X6275 SERVER MODULE	000-0000-00	0000000000
/CH/NEM0	SUN BLADE 6000 ETHERNET SWITCHED NEM 24P 10GE	541-3770-03	-
/CH/NEM1	SUN BLADE 6000 ETHERNET SWITCHED NEM 24P 10GE	541-3770-03	-

Done 10.6.73.158

- 表示するブレードとノードを左の区画から選択します。
ノードの「Overview」ページが表示されます。



- ノード SP の IP アドレスを記録します。
ネットワーク経由で直接ノード ILOM にログインするには、ノード SP の IP アドレスを知る必要があります。デフォルトでは、ノード SP の IP アドレスは DHCP を使用して設定されます。静的 IP アドレスを設定する場合は、42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」を参照してください。
- 手順 4 を繰り返し、サーバーの別のノードにある SP の IP アドレスを取得します。
たとえば、Node 0 を選択済みの場合は、左の区画から Node 1 を選択します。

▼ CLI を使用して ILOM の IP アドレスを表示する方法

シャーシの CMM ILOM を使用して、各サーバーノードの ILOM サービスプロセッサのネットワーク構成 (IP アドレスも含む) を表示する必要があります。この手順では、ノードの ILOM が正しく機能し、CMM ILOM 経由でアクセス可能かどうかを確認します。

始める前に シャーシの CMM は、Ethernet 管理ポートを使用してネットワークに接続済みであり、設定が完了して運用可能な状態である必要があります。そうでない場合は、続行する前に使用しているシャーシのドキュメントを参照してください。

- 1 端末ウィンドウを開きます。
- 2 **Secure Shell (SSH)** セッションを使用して、シャーシの **CMM ILOM** にログインします。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
$ ssh username@ CMMIPaddress
```

username は管理者特権を持つユーザーアカウントで、*CMMIPaddress* は CMM ILOM の IP アドレスです。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

CMM ILOM へのログインに成功すると、ILOM プロンプト (->) が表示されます。

- 3 以下のコマンドを入力します。

```
-> show /CH/BL0/NODE0/SP/network
```

BL0 は、シャーシ内の Sun Blade X6275 M2 サーバースロット 0 を示し、NODE0 はサーバーのノード 0 を示します。CMM ILOM は、IP アドレスと MAC アドレスを含むサーバーモジュールの情報を表示します。

ブレード 0 とノード 0 のサーバーモジュール情報が表示された例を次に示します。

```
-> show /CH/BL0/NODE0/SP/network
/CH/BL0/NODE0/SP/network
Targets:
Properties:
  type = Network Configuration
  commitpending = (Cannot show property)
  ipaddress = IPaddress <-- Node SP IP address
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = IPgateway
  ipnetmask = 255.255.255.0
  macaddress = Macaddress
  pendingipaddress = IPaddress
  pendingipdiscovery = dhcp
  pendingipgateway = IPgateway
  pendingipnetmask = 255.255.255.0
Commands:
  cd
  set
  show
->
```

- 4 ノード SP の IP アドレスを含むネットワーク構成を記録します。

直接ノード ILOM にログインするには、ノード SP の IP アドレスを知る必要があります。デフォルトでは、ノード SP の IP アドレスは DHCP を使用して設定されます。静的 IP アドレスを設定する場合は、[42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」](#)を参照してください。

- 5 手順3を繰り返し、サーバーのノード1サービスプロセッサのIPアドレスを取得します。
NODE0をNODE1に置き換えます。
- 6 CMMILOMからログアウトするには、次のコマンドを入力します。
-> exit

- 次の手順
- 38ページの「ILOMへのアクセス」
 - 42ページの「ILOMのIPアドレスの設定」
 - 49ページの「サポートされているOSのインストール」

ILOMへのアクセス

このトピックでは、サーバーモジュールノードのILOMにアクセスするための複数の方法を説明します。その内容を次に示します。

- 38ページの「Ethernet接続を使用してILOMのWebインタフェースにログインする方法」
- 40ページの「Ethernet接続を使用してILOM CLIにログインする方法」
- 40ページの「シリアル接続を使用してILOMにログインする方法」

▼ Ethernet接続を使用してILOMのWebインタフェースにログインする方法

- 始める前に
- 応答時間を改善するには、Webブラウザのプロキシサーバーを無効にする必要があります(使用している場合)。
 - サーバーモジュールの各ノードにあるSPのIPアドレスがわからない場合は、34ページの「Webインタフェースを使用してILOMのIPアドレスを表示する方法」を参照し、CMMILOMを使用してIPアドレスを取得する方法を確認してください。

- 1 ログインするには、ノードの ILOM の IP アドレスを Web ブラウザに入力します。Web インタフェースのログインページが表示されます。



- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

- 3 「Log In」をクリックします。

Web インタフェースの「Versions (バージョン)」ページが表示されます。

Property	Value
SP Firmware Version	3.0.4.10
SP Firmware Build Number	46759
SP Firmware Date	Fri Jul 10 14:54:13 PDT 2009
SP Filesystem Version	0.1.22

これで、ノードの ILOM のにログインしました。

ILOM Web インタフェースの使用法については、ILOM 3.0 のドキュメントコレクションを参照してください。

- 次の手順
- 42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」
 - 44 ページの「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

▼ Ethernet 接続を使用して ILOM CLI にログインする方法

始める前に サーバーモジュールの各ノードにある SP の IP アドレスがわからない場合は、36 ページの「CLI を使用して ILOM の IP アドレスを表示する方法」を参照し、CMM ILOM を使用して IP アドレスを取得する方法を確認してください。

- 1 端末ウィンドウを開きます。
- 2 **Secure Shell (SSH)** セッションを使用して、ノード **ILOM** にログインします。
たとえば、次のコマンドを入力します。

```
$ ssh username@ SPIAddress
```

username は管理者特権を持つユーザーアカウントで、*SPIAddress* はノードサービスプロセッサの IP アドレスです。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

ノード ILOM へのログインに成功すると、ILOM プロンプト (->) が表示されます。

CLI インタフェースを使用して ILOM を設定する方法については、ILOM 3.0 のドキュメントを参照してください。

- 次の手順
- 42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」
 - 44 ページの「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

▼ シリアル接続を使用して ILOM にログインする方法

この手順を実行するには、サーバーモジュールで物理的な作業を行う必要があります。

始める前に オプションのマルチポートケーブル(ドングルとも呼ばれる)が必要です。マルチポートケーブルは、ノードのホストコンソールまたは SP コンソールに直接接続する方法を提供しています。マルチポートケーブルは、Sun Blade 6000 モジュールシステムシャーシに標準装備されている場合があります。

- 1 マルチポートケーブルをサーバーモジュールの前面にある適切な UCP ポートに接続します。UCP ポートは 2 つあり、各ノードに 1 つずつ割り当てられています。オプションのマルチポートケーブルを接続する方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「マルチポートケーブルの使用」を参照してください。
- 2 端末エミュレーションソフトウェアを実行している端末またはコンピュータをマルチポートケーブルのシリアル管理ポートに接続します。
- 3 使用している端末で、次のシリアル通信設定が構成されていることを確認します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー (デフォルト設定 - 変更不可)
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
- 4 **Enter** を押して、サーバーノード **ILOM** へのシリアルコンソール接続を確立します。ILOM へのログインプロンプトが表示されます。例:
`SUNSP-productserialnumber login:`
- 5 管理者アカウントを使用して、**ILOM** の **CLI** にログインします。管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

これで、ノード ILOM にログインしました。

CLI インタフェースを使用して ILOM を設定する方法については、ILOM 3.0 のドキュメントコレクションを参照してください。

- 次の手順
- [42 ページの「ILOM の IP アドレスの設定」](#)
 - [44 ページの「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」](#)
 - [49 ページの「サポートされている OS のインストール」](#)

ILOMのIPアドレスの設定

ノードのILOMサービスプロセッサに、静的または動的IPアドレスを設定することができます。デフォルトでは、各ノードSPはDHCPを使用してIPアドレスを設定します。

次のいずれかの手順を選択します。

- 42 ページの「DHCP IP アドレスを設定する方法」
- 43 ページの「静的 IP アドレスを設定する方法」

▼ DHCP IP アドレスを設定する方法

始める前に 動的ホスト構成プロトコル(DHCP)のネットワーク構成は、各ノードのILOMサービスプロセッサで出荷時のデフォルト設定になっています。デフォルト設定が変更されている場合のみ、次の手順に従います。

- 1 端末ウィンドウを開きます。
- 2 **Secure Shell (SSH)** セッションを使用して、シャーシの **CMM ILOM** にログインします。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
$ ssh username@ CMMIPaddress
```

username は管理者特権を持つユーザーアカウントで、*CMMIPaddress* は CMM ILOM の IP アドレスです。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

- 3 次のコマンドを入力し、サーバーモジュールノード SP で **DHCP** がすでに設定されているかどうかを確認します。

```
show /CH/BL0/NODE0/SP/network
```

BL0/NODE0 は、シャーシブレードのスロット 0、サーバーモジュールノード 0 を示します。DHCP がすでに設定されている場合は、`ipdiscovery = dhcp` および `pendingipdiscovery = dhcp` と表示されます。

- 4 SP が **DHCP** を使用するように設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> cd /CH/BL0/NODE0/SP/network  
-> set pendingipdiscovery=dhcp  
-> set commitpending=true
```

- 手順3と4を繰り返し、サーバーの別のノードを設定します。
たとえば、NODE0を設定済みの場合は、NODE1を設定するコマンドを入力します。
- CMMILOMからログアウトするには、次のコマンドを入力します。
-> `exit`

- 参照
- 44 ページの「ILOMを使用したホストコンソールへのアクセス」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

▼ 静的 IP アドレスを設定する方法

サーバーノードの ILOM サービスプロセッサに静的 IP アドレスを割り当てる場合は、次の手順を実行します。

- 端末ウィンドウを開きます。
- Secure Shell (SSH) セッションを使用して、シャーシの CMMILOM にログインします。
例:

```
$ ssh username@ CMMIPaddress
```

username は管理者特権を持つユーザーアカウントで、*CMMIPaddress* は CMM ILOM の IP アドレスです。

ヒント-デフォルトの ILOM 管理者のアカウントユーザー名は **root** で、パスワードは **changeme** です。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

- 静的 IP アドレスのネットワーク構成設定を入力します。
静的 IP アドレスとネットワーク構成情報が変更されるように置換します。現在の設定を表示するには、`/CH/BL4/NODE0/SP/network` で `show` コマンドを使用します。
たとえば、次に示すコマンドを入力できます。
-> `cd /CH/BL4/NODE0/SP/network`
-> `set pendingipaddress=129.144.82.26`
-> `set pendingipnetmask=255.255.255.0`
-> `set pendingipgateway=129.144.82.254`
-> `set pendingipdiscovery=static`
-> `set commitpending=true`
- 手順3を繰り返し、サーバーの別のノードを設定します。
たとえば、NODE0を設定済みの場合は、NODE1を設定するコマンドを入力します。

- 5 **CMMILOM** からログアウトするには、次のコマンドを入力します。

-> **exit**

- 参照
- 44 ページの「ILOMを使用したホストコンソールへのアクセス」
 - 49 ページの「サポートされている OS のインストール」

ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス

ILOM を使用してホストコンソールに接続すると、実際にホストで行っているように操作を実行できます。この操作は、サーバーの BIOS 設定プログラムへの遠隔アクセスが必要な場合や、サーバーに OS やその他のソフトウェアをインストールする場合に役立ちます。

次のいずれかの方法を選択します。

- ILOM コマンド行インタフェース経由でシリアルコンソールを使用します。44 ページの「ILOM コマンド行インタフェースを使用してホストのシリアルコンソールに接続する方法」を参照してください。
- ILOM Web インタフェースの遠隔コンソール機能を使用します。45 ページの「ILOM Web インタフェースを使用してホストコンソールに接続する方法」を参照してください。

▼ ILOM コマンド行インタフェースを使用してホストのシリアルコンソールに接続する方法

- 1 管理者特権を持つアカウントを使用して、サーバーノードの **ILOM** にログインします。

前述した次のいずれかの方法を使用します。

- 40 ページの「シリアル接続を使用して ILOM にログインする方法」に従って、シリアル管理ポートを使用します。
- クライアントシステムを使用して、ネットワーク経由で SSH セッションを確立します。詳細については、40 ページの「Ethernet 接続を使用して ILOM CLI にログインする方法」を参照してください。

- 2 ホストシリアルコンソールにアクセスするには、次のコマンドを入力します。

-> **start /HOST/console**

シリアルコンソールの出力が画面上に表示されます。

注 - シリアルコンソールが使用中の場合は、**stop /HOST/console** コマンドに続いて **start /HOST/console** コマンドを入力し、シリアルコンソールの停止と再起動を行います。

- 3 ILOM コンソールに戻るには、ESC キーを押してから "(" 文字 (Shift キー + 9) を入力します。

▼ ILOM Web インタフェースを使用してホストコンソールに接続する方法

始める前に 遠隔システムからホストコンソールに接続するには、遠隔システムで次の要件が満たされている必要があります。

- Oracle Solaris、Linux、または Windows などのオペレーティングシステムがインストールされている。
- CMM の Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されている。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされています。CD-ROM のリダイレクトでは、32 ビット Java を使用する必要がある。
- 遠隔コンソールシステムが Oracle Solaris OS を実行している場合は、物理フロッピーディスクドライブと CD/DVD-ROM ドライブにアクセスするために、遠隔コンソールのボリューム管理を無効にする。
- リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web Interface Procedures Guide』の説明に従って、遠隔コンソールシステムと ILOM サービスプロセッサをセットアップする必要がある。

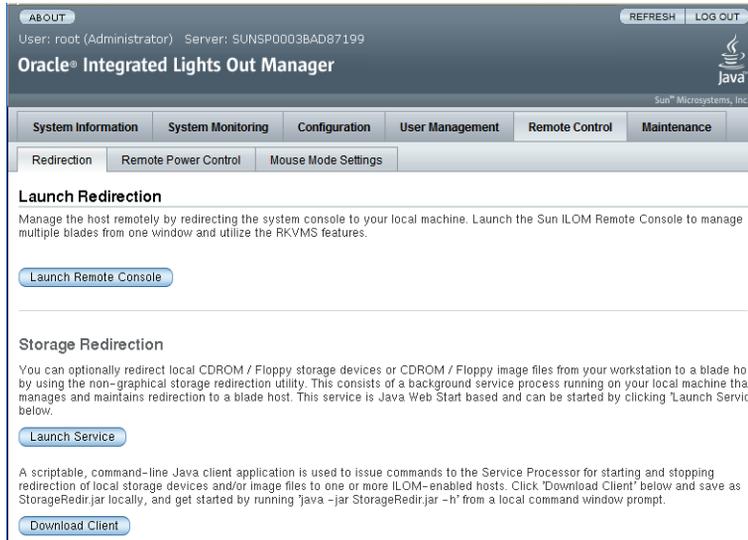
- 1 Web ブラウザからサーバーノードの ILOM にログインします。

これらの手順は、38 ページの「[Ethernet 接続を使用して ILOM の Web インタフェースにログインする方法](#)」に記載されています。

- 2 ILOM Web インタフェースで「Remote Control」タブをクリックします。

「Launch Redirection」画面が表示されます。

注 - 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。



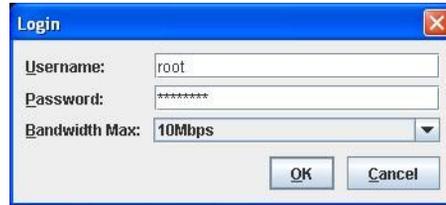
3 「Launch Remote Console」をクリックします。

次の点に注意してください。

- JavaRConsole システムのリダイレクションに Windows システムを使用している場合、「Launch Remote Console」をクリックしたあとに、「Hostname Mismatch」警告ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合は、「Yes」ボタンをクリックして消去します。

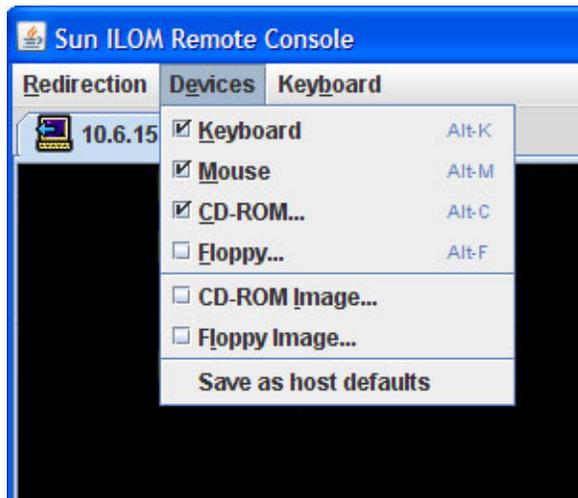


- 場合によっては「Remote Control」ログインダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合は、ユーザー名とパスワードを再入力して「OK」をクリックします。



JavaRConsole 画面が表示されます。

- 4 遠隔システム上のデバイスをホストコンソールにリダイレクトするために、「Devices」メニューから適切な項目を選択します。



- 遠隔の物理フロッピーディスク - 「Floppy」を選択して、遠隔システムに接続された物理フロッピーディスクドライブにサーバーをリダイレクトします。
- 遠隔のフロッピーイメージ - 「Floppy Image」を選択して、遠隔システム上にあるフロッピーイメージファイルにサーバーをリダイレクトします。
- 遠隔の物理 CD/DVD - 「CD-ROM」を選択して、遠隔システムに接続された CD/DVD ドライブ内の CD/DVD にサーバーをリダイレクトします。
- 遠隔の CD/DVD イメージ - 「CD-ROM Image」を選択して、遠隔システム上にある .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトします。

注-サーバー上にソフトウェアをインストールするためにCD/DVD オプションのいずれかを使用することにより、ネットワーク経由でコンテンツにアクセスするため、インストールの実行に必要となる時間が大幅に増加します。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

参照 [49 ページの「サポートされている OS のインストール」](#)

サポートされている OS のインストール

各ノードの起動デバイスにサポートされているオペレーティングシステム (Operating System、OS) をインストールして、サーバーモジュールの設置を完了します。各ノードにはそれぞれ異なる OS をインストールできます。

OS をインストールするには、次のいずれかのオプションを選択します。

- サーバーモジュールノードのオプションの内部フラッシュモジュール (**FMod**) に **OS** をインストールします。

このオプションの使用方法については、該当する Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの OS インストールガイドを参照してください。

- **PCIe EM** ホストバスアダプタに接続している外部ストレージに **OS** をインストールします。

OS 起動ディスクを作成する方法については、PCIe EM ホストバスアダプタのドキュメントを参照してください。

注-サーバーハードウェアを完全にサポートするために、あとでサーバーモジュールにドライバを追加インストールする必要がある場合があります。ドライバの最低要件については、該当する Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの OS インストールガイドを参照してください。

- **PXE (Preboot Execution Environment)** 用に設定されたサーバー上のイメージからサーバーモジュールノードに **OS** が読み込まれるようにネットワーク起動を設定します。

このオプションの使用方法については、該当するサーバーモジュールの OS インストールガイドを参照してください。

注-さらに、各サーバーモジュールノードは、内部にマウントされた USB フラッシュドライブの取り付けをサポートしています。市販のフラッシュドライブ (「サムドライブ」とも呼ばれる) は、物理的なサイズ要件を満たしていれば、追加のストレージとして使用することができます。50 ページの「[USB フラッシュドライブ](#)」を参照してください。

関連項目

- 50 ページの「フラッシュモジュール」
- 50 ページの「USB フラッシュドライブ」
- 51 ページの「起動デバイスの指定」

フラッシュモジュール

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは、ノードごとに1つの Sun フラッシュモジュール (FMod) をサポートしています。FMod は、ノードでローカル SATA ディスクドライブとして表示され、組み込み型 ICH10 ディスク制御装置によって制御されます。FMod を使用して、サポートされているオペレーティングシステムのインストールと起動を実行することができます。

フラッシュモジュールの取り付け方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。



注意 - マザーボード上の緑色の FMod 電源 LED が消えるまで、フラッシュモジュールの取り外しまたは挿入を行わないでください。この LED (FMod スロットの隣にある) は、エネルギーストレージモジュール (Energy Storage Module、ESM) から FMod に電源が供給されていることを示します。緑色の FMod 電源 LED が点灯している間に FMod を取り外すと、フラッシュモジュールが損傷する可能性があります。ESM が放電して LED が消えるまで 20 秒以上かかります。

関連項目

- 50 ページの「USB フラッシュドライブ」
- 51 ページの「起動デバイスの指定」

USB フラッシュドライブ

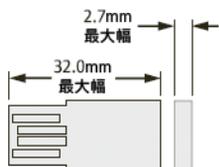
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの後部にあるマザーボード上には、ノードごとに1つの内部 USB ポートがあります。USB ポートにアクセスするには、シャーシからサーバーモジュールを取り外す必要があります。

USB フラッシュドライブが存在する場合は、ローカルディスクデバイスとして表示されます。USB フラッシュドライブをノードの起動デバイスとして設定することも可能です。

標準 USB 2.0 インタフェース搭載の USB フラッシュドライブは、サードパーティーから取得できますが、次の図に示された物理的な要件を満たしている必要があります。



注意 - USB フラッシュドライブは、幅 2.7 mm × 長さ 32.0 mm 以内である必要があります。フラッシュドライブのサイズがこれより大きくなると、シャーシにブレードを取り付ける際の妨げになります。



USB フラッシュドライブを取り付ける方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「USB フラッシュドライブの取り外しと取り付け」を参照してください。

関連項目

- 50 ページの「フラッシュモジュール」
- 51 ページの「起動デバイスの指定」

起動デバイスの指定

起動デバイスとして機能するデバイスをノードごとに指定することができます。次の 2 つのオプションがあります。

- 起動デバイスを一時的に選択します。ノードの現在の起動セッション用に起動デバイスを選択するには、システム起動プロセスの最初に F8 キーを押して、「Boot Device Selection (起動デバイスの選択)」メニューを表示します。カーソルキーを使用して現在のセッション用のデバイスを選択し、Enter を押します。ノードのオプション FMod を選択した例を次に示します。



- 起動デバイスの順序を事前に設定します。システムノードが起動デバイスを探す順序を事前に設定するには、システム起動プロセスの最初に F2 キーを押して、ノードの BIOS 設定ユーティリティを起動します。カーソルキーを使用して「Boot (ブート)」メニューに移動し、「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」オプションを選択して起動デバイスのリストを表示します。リストの一番上にあるデバイスが、一次起動デバイスとして使用されます。

ノードのオプション FMod を選択した例を次に示します。



注 - BIOS で起動順序を設定したあとも、このトピックで前述した一時的な方法を使用して、起動セッションの起動デバイスを変更することができます。

索引

B

BMC, 「SP」を参照

C

CLI, Ethernet を使用した ILOM へのアクセス, 40

CMM

 CMM ILOM について, 30

 定義, 9

CPU, サポート対象, 13

D

DHCP, ILOM 用に設定, 42-43

DIMM, サポート対象, 13

F

FMod

 概要, 50

 定義, 9

I

ILOM

 CLI を使用した IP アドレスの表示, 36-38

 CLI を使用したホストコンソールへのアクセス, 44-45

 CMM ILOM について, 30

ILOM (続き)

 DHCP IP アドレスの設定, 42-43

 Web インタフェースを使用した ILOM の IP アドレスの表示, 34-36

 Web インタフェースを使用したホストコンソールへのアクセス, 45-48

 Web インタフェースを使用したログイン, 38-40

 アクセス方法, 38

 イベントログ, 27

 コマンド行インタフェース (CLI) を使用したログイン, 40

 シリアル接続を使用したログイン, 40-41

 静的 IP アドレスの設定, 43-44

 設定タスク, 29-48

 定義, 9

 ネットワーク構成, 42

 ノード SP の ILOM について, 32

 の概要, 30

 ホストコンソールのリダイレクション, 44

ILOM を使用したサーバー管理, 29-48

IP アドレス

 DHCP の設定, 42

 ILOM CLI を使用した SP アドレスの取得, 36-38

 ILOM の Web インタフェースを使用した SP アドレスの取得, 34-36

 静的設定, 43-44

L

LED, 18

N

NEM, 定義, 9

NEM のノードへの割り当て, 23

O

OS, インストール, 49-52

P

PCIe EM, 定義, 9

R

REM (サポートなし), 10

S

SP

IP アドレスの設定, 42

定義, 9

ノード ILOM について, 32

U

USB フラッシュドライブ, 50

仕様, 16

W

Web インタフェース, Ethernet を使用した ILOM へのアクセス, 38-40

X

X6275 M2 の製品説明, 10

あ

アクセス

ILOM, 38

シリアルホストコンソール, 44

い

位置特定ボタン/LED, 18

インジケータ (LED), 18

インストール, OS インストールのオプション, 49-52

え

演算ノード, 定義, 9

お

オプションのコンポーネント, 21

オペレーティングシステムのサポート, 15

温度仕様, 16

か

環境仕様, 16

き

起動デバイス, 選択, 51

機能一覧, 13

こ

構成要件, 11

高度仕様, 16
 互換性
 NEM, 13
 シャーシ, 13
 メモリー, 13
 コマンド行インタフェース (CLI), 「CLI」を参照
 コンソール, シリアルホスト接続, 44

さ

サーバーの電源切断, 26-27
 サーバーへの電源投入, 25-26
 サーバーモジュール
 設置, 24-25
 定義, 9
 サーバーモジュールの概要, 9-18
 サービスプロセッサ (SP), 「SP」を参照

し

システム説明, 10
 システムの説明, 10
 湿度仕様, 16
 シャーシ, 定義, 9
 シャーシのサポート, 13
 シャーシのミッドプレーンのサポート, 13
 出荷キットの内容, 19
 主電源, サーバーの取り外し, 26-27
 使用可能なモデル, 10
 シリアル接続, ILOM で使用, 40-41
 シリアル番号の位置, 20

す

ストレージオプション, 15
 寸法仕様, 16

せ

正常な停止, 26-27
 静的 IP アドレス, ILOM 用に設定, 43-44

製品の機能と仕様, 13
 製品の説明, 10
 設置
 シャーシへのブレード, 24-25
 前提条件, 22
 設置の前提要件, 22
 全電力, 投入, 25-26

ち

チップセット, 11

て

電圧仕様, 16
 電気仕様, 16
 電源状態, トラブルシューティング, 27
 電源状態のトラブルシューティング, 27
 電力仕様, 16

と

ドングル, 「ユニバーサルコネクタポート (UCP)」を参照

ね

ネットワークインタフェース, サポート対象, 10
 ネットワーク起動, 49-52

の

ノード
 NEM の割り当て, 23
 SP ILOM について, 32
 定義, 9
 電源切断, 26-27
 電源投入, 25-26
 電源問題のトラブルシューティング, 27
 物理的な位置, 18

ひ

ビデオ, 13

ふ

ファブリック拡張モジュール (FEM) 不要, 12
ブラウザ, ILOM で使用, 38-40
フラッシュドライブ, USB, 50
フラッシュモジュール (FMod), 「FMod」を参照
フロントパネル LED, 18

ほ

ホストシリアルコンソール, ILOM を使用した接
続, 44

ま

マルチポートケーブル, 40-41

め

メモリー, 「DIMM」を参照

ゆ

ユニバーサルコネクタポート (UCP), 18

よ

用語の定義, 9

り

リモートコンソール, ILOM を使用したアクセ
ス, 44